

信友直子さん 講演会 & 映画上映会

手話あり

「ぼけますから、よろしくお願いします。」

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録



©萩庭桂太

監督・撮影・語り

講師

ひとり娘

信友直子

©2018「ぼけますから、よろしくお願いします。」製作・配給委員会

定員400名
入場無料

令和6年2月24日(土)

巻文化会館 (新潟市西蒲区巻甲635番地)

<プログラム>

午後1時 開場
午後1時30分 開会
午後1時40分～午後3時20分 映画上映
午後3時30分～午後4時30分 講演会

申込

受付期間：令和6年1月5日(金) ▶ 1月31日(水)

以下のいずれかの方法でお申し込みください

①新潟市役所コールセンター(☎025-243-4894)へ電話

※受付時間：午前8時～午後9時

②右の二次元コードからアクセスし、Webサイトから申し込み

■定員を上回った場合は抽選となります

■当選者のみ、2月6日頃入場券を発送します

■入場の際は入場券が必要です

■お1人につき5名まで申し込み可



主催：西蒲区自治協議会

後援：西蒲区社会福祉協議会、認知症の人と家族の会 新潟県支部、西蒲区在宅医療ネットワークの集い、西蒲区キャラバンメイト連絡会

問い合わせ：西蒲区自治協議会事務局(西蒲区役所地域総務課内)☎0256-72-8143



かとうを向けと初めて気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。

**母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

大反響のテレビドキュメンタリー、 待望の映画化。

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子



1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



©2018「ばけますから、よろしくお願ひします。」製作・配給委員会

会場案内

